

黄色のモモの良食味品種「つきあかり」の大果生産技術

試験研究計画名：果物の東アジア、東南アジア輸出を促進するための輸出国ニーズに適合した生産技術開発及び輸出ネットワーク共有による鮮度保持・低コスト流通・輸出技術の実証研究

地域戦略名：生産と流通が一体となった和歌山県産果実（ミカン、カキ、モモ）の輸出拡大

研究代表機関名：(国)岡山大学

地域の競争力強化に向けた技術開発のねらい

和歌山県では、生産（市場競争力の高い品種や商品の低コスト・安定生産）と流通（流通ルートや手段）が一体となった総合体系を確立し、外国産果実との差別化を図るとともに、輸出を拡大し、果樹産地及び農家の体質強化につなげることを地域戦略の目標としています。モモ「つきあかり」は2010年に品種登録され、高精度で良食味の黄肉種であることから差別化が図りやすく、輸出向けの品種として期待されていますが、果実がやや小さいため、有利販売可能な大果生産技術の開発が望まれていました。

開発技術の特性と効果：

「つきあかり」には花粉があるものの、開花期の天候不順などにより、結実性が「白鳳」などに比べやや劣ります。そのため、中長果枝では枝の上面の蕾のみ摘みとる程度の軽め（全体の50%程度）の摘蕾とします。その後、結実を確認してから満開後25日頃に行う予備摘果では、慣行栽培に比べ強め（最終着果量の1.5倍程度）にすることで、核割れ果等の生理障害の発生を助長することなく、肥大が促進され大果生産が可能になりました（表1、図1、図2）。

表1 「つきあかり」の予備摘果程度の違いと果実品質

年次	処理区	果実重(g)	果実糖度 (Brix %)	核割れ 果率(%)	水浸状果肉褐変症 (ミツ症)程度
H28	早期強摘果区(満開25日 予備摘果1.5倍)	324.5	15.8	43.3	0
	慣行区(満開25日 予備摘果3.0倍)	290.7	14.4	26.7	0
	有意性 ^z	**	n.s.	n.s.	n.s.
H29	早期強摘果区(満開25日 予備摘果1.5倍)	312.6	15.9	61.7	0.03
	慣行区(満開25日 予備摘果3.0倍)	269.1	14.9	56.7	0.02
	有意性	*	n.s.	n.s.	n.s.

^z:t検定による。**:1%水準で有意差あり *:5%水準で有意差あり n.s.:有意差なし
早期強摘果区は、満開25日目に最終着果量の約1.5倍(慣行区は約3倍となるよう)幼果を残して、予備摘果し、満開54日目に仕上げ摘果(慣行区も同様)した。

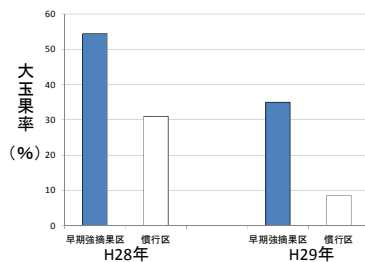


図1 早期強摘果区と慣行区の大玉果 (300g以上)



図2 大玉果(約300~340g)の荷姿

開発技術の経済性:

本処理法による摘果作業（予備摘果及び仕上げ摘果）に要する時間や作業性等は慣行法と差がないことから、新たな労働負担などは発生しません。収益性の試算値は早期強摘果区では慣行区に比べ約 20%～33%増加しました（表 2）。なお、香港現地バイヤーから大玉果（約 300 g）は中玉果（約 250 g）に比べ 20%高い 60HK\$（900 円）相当の評価を得ています。

表 2 「つきあかり」の予備摘果程度の違いと 10a あたりの収益性の試算値

年次	処 理 区	出荷量の 精算額(円)	(慣行区対比)	差額(a-b)
H28	早期強摘果区(満開25日 予備摘果1.5倍)	1,791,416 a	(120)	
	慣行区 (満開25日 予備摘果3.0倍)	1,496,680 b	(100)	294,736
H29	早期強摘果区(満開25日 予備摘果1.5倍)	1,480,282 a	(133)	
	慣行区 (満開25日 予備摘果3.0倍)	1,110,318 b	(100)	369,964

注) 処理区の全収穫果の果実重の調査結果と出荷先の各階級毎の精算単価、10aあたり出荷数を8200果として試算
出荷量の精算額はJAの販売手数料等を差し引いた生産者手取り額である。

こんな経営、こんな地域におすすめ:

全国のもも産地で導入が可能と考えられますが、黄桃品種の入荷の少ない7月中下旬に香港への輸出を考える場合には、西南暖地での栽培をおすすめします。

技術導入にあたっての留意点:

「つきあかり」は樹勢がやや強く、若木の間は、新梢と果実の養分競合などから本摘果法だけで大果生産することは困難です。そのため、樹勢の強い樹では、剪定を弱めにし、施肥量を軽減するなどして、早期の樹勢の安定化に努める必要があります。

研究担当機関名：和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

お問い合わせは：和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

電話 0736-73-2274 E-mail e0703071@pref.wakayama.lg.jp

執筆分担（和歌山県果樹試験場かき・もも研究所 主任研究員 和中学）